

最後まであきらめなかった人間が成功する！ ・・・今、考えてほしいこと（続）

人生で一番勉強する時期

令和6年も残り2ヶ月までやってきました。本当に今年一年よく勉強したと思いますが、勉強はまだまだ来年3月まで続きます。自分の人生を振り返った時、この時期を人生で一番勉強した時期だったと思い返す人も多いでしょう。ただ、受験勉強は進路が決定すれば終わるかもしれませんが、勉強自体は一生続きます。いや、続けなければなりません。そのための基礎作りが「実は高校生活であった」といえます。共通テストや私立大学の一般選抜、国公立大学の2次試験とこれからいよいよ本番の人が多くいます。今、思わしくない結果に悩んでいる人も、頑張り続ける自分を信じてとにかく手を動かしてください。現役生は本当にここから伸びます。受験当日まで伸びます。体に気をつけてみんな頑張りましょう。

受験は、貴重な課題解決体験を与えてくれる

クイズ王で、今では会社を起こしてマルチな活動をされている、伊沢拓司さんの著書「勉強大全」にちょうどみんなにも読んでほしい内容が書かれていますので、紹介してみたいと思います。「受験勉強は将来役立たない」などと言われたりもしていますが、見方を変えればこんな貴重な「課題解決体験を与えてくれる」ものだともいえます。思い切り向き合ってみましょう。

<受験は、貴重な課題解決体験を与えてくれる> 伊沢拓司「勉強大全」より

（前略）ここまで、「自己分析」「自分を知ること」が役に立つ……という話をしてきました。大きな課題にぶつかり、じっくりと対処するような機会でもない限り、まず「自己分析から初めて……」というような根本的対策を取るところまでいかないものです。ちょっと無理すれば解決できちゃう、みたいな課題なら、自分の特性なんかは無視してもそんなに結果は変わりませんし。でも受験は長丁場の勝負。ムリがたたれば積み重なって大ダメージになります。自分の性格や感情と折り合いをつけての長期戦、というイメージを持つことが大事になるでしょう。

と、ここまでは「自分」にフォーカスして受験の大切さを述べてきましたが、そもそも「相手の分析」なども含めて「対策」そのものの経験が人生の役に立つ、と言ってもいいのではないのでしょうか。

例えば、自分の力だけではうまくいかないから、他人の意見も聞いてみたり。仲間のやり方を真似してみたり。先生の言ったことをやってみたり。うまくいかない原因をじっくり考えてみたり。とりあえず手を動かしてみたり。実際に合格した人の意見を探してみたり。やり方は無限大ですね。

そんないろいろな方法を知り、試し、合格という目標に向かって進んでいくわけですから、これはもう格好の課題解決体験です。もちろん、部活や趣味、日常で同じような体験をすることもできるでしょう。でも、何回ぶつかったって、それら一回一回の価値が失われることはないですよ。ましてや受験ともなれば、大きいものを背負って、必死こいて解決する必要のある課題が用意されるわけです。そして、決定するのは自分。待っていたって誰も助けてくれず、決着のときは刻々と迫ってきます。きっちりとルールが設定された、逃げ場のない最高の闘技場と言えるわけです。興奮してきますね！

ここで得た経験は、必ずや色々なものに対する「自分のやり方」を確立するヒントになるでしょう。それに加えて、ハードな課題に立ち向かい、クリアしたという自信や経験も与えてくれます。そのような体験を若いうちにできるということが、受験の持つ大きな意義なのかなと思います。

面接の準備はどのようにしたらいい？

10月に入って順次模擬面接が行われています。面接の監督官になってくださった先生方からは

「言葉遣いに気を取られすぎて言いたいことが伝わってこない」
「覚えてきたことを思い出すのに精一杯で自分の言葉で答えを返せていなかった」
「お辞儀などの動作をきちんとするのに精一杯で、受け答えに余裕がない」
「具体的な、自分にしかいえない貴重な体験を話してくれない」

という声があがっていました。本番でそうならないためにはどうしたらいいのでしょうか。ここでもう一度「面接必勝法」について考えてみましょう。

「面接」とは、言い換えると「**自分を売り込む機会**」と言っていいでしょう。いかに相手に自分をアピールし、自分を「採用」することが相手にとって「得」であるかを説得するチャンスです。そのためには事前に己のセールスポイントをまとめておき、自分にとって有利に会話がはずむようなコミュニケーション的戦略が必要となるのです。

そのためには第一印象で相手に好感をもってもらうのは大切です。きちんとした身だしなみ、姿勢、話すときの目線等細かい態度に気を配りましょう。声の大きさや言葉遣いなど、適切な言葉を丁寧に発話できるように。そのためには、自分の言葉として話せるように、よく聞かれそうなものについては紙に書いてみることで。書いてみることで、ここを膨らまそうとか、ここがアピールポイントだと伝えようとか、考えることができるし、活き活きとしゃべることができるようになります。最後に7つのポイントを書いておきます。

- ① 今日からすぐ、先生や目上の人と話す際に丁寧な言葉遣いをするよう気をつける。
- ② お辞儀などの基本動作や挨拶がきちんとできるように常に心がける。
- ③ 自分の勉強しようとする分野についての知識を持つ。さらに自分なりの意見を自分の言葉で文章にまとめておく。
- ④ 志望校の教育方針（アドミッションポリシーも）と自分の志望理由をまとめておく。オープンキャンパスで説明されたことや印象に残ったことを活用するとよい。
- ⑤ 受験する学校の面接形態（個人、集団、ディスカッション、口頭諮問など）を調べる。
- ⑥ 自分のセールスポイントをできるだけ具体的に答えられるように、日頃から自分を分析し、整理しておく。
- ⑦ 過去の質問内容を調べ、答え方を考える。（裏面につづく）

この時期だからこそ普通のことをしっかりやる

共通テスト本番までもう2カ月ちょっとになりました。模擬試験の結果を見ても、やるべき問題の山を見ても、気持ちは焦るばかりかもしれませんが、**ここで大事なことはあくまで「普通のことをやり続ける」ということです。**急に特別なことをやっても成功しません。また合格する人は難問・奇問が解ける人ではありません。大半は普通の問題を確実に得点する人なのです。もちろんそこにこそ難しさがあるのですが、「普通にやるべきこと」は分かっていると思いますので、あとはそれを「上手くやれる」ところまで自分を高めていくだけです。ここではそんな時の心構えをいくつか挙げたいと思います。

1. 学習生活習慣を朝型にし、健康管理にも十分注意せよ

まず大切なのはこれです。受験本番は朝9時頃から始まるのですから、その時間帯に最大限の力を発揮できるように心身の習慣作りをしなければなりません。無理をして深夜に勉強するより、睡眠をとって朝から勉強する方が効果的です。

2. 今のうちに使おうと思っている参考書・問題集を準備し、それ以外には手を出さずに、時間に余裕ができたらし使い込んだものをやり直せ

過去問をやって特に強化しなければならない分野が出てきたとか、最後の総復習にどうしても必要だとかいう場合、何を用いて強化しようか考える重要な時期が今頃です。そしてやることが決まったら、章だてを考えて、ペースを決めて計画を立ててもくもくとやるのです。途中でA君が〇〇をやっているからとかいって、あれこれ新しい参考書や問題集を買ったりしては計画が狂うもです。A君にはぴったりでも自分に合っている保証もありません。さらに時間をかけてやれるときには、使い慣れたものをもう一巡やる方が定着度が高いです。

3. 共通テストは過去問に取り組み、自分なりの解き順と時間配分を考えよ

共通テストは、限られた時間を効率的に使って正確に解答することが重要です。ある問題にこだわって時間をかけ過ぎれば、たとえそれに正解できたとしても、他の問題を解く時間がなく、合計点では期待を大きく下回ってしまう場合もあります。それだけに、事前に共通テストの過去問演習を通じて、それぞれの大問にかけられる時間、言い換えれば見切りをつけなければならないタイムリミットを覚えておくことが必要です。また有効ならば、解く順に工夫をするのもよいでしょう。例えば国語は古文・漢文を先に解いてから、じっくり現代文をやる方がよい場合もあるでしょう。ただ解き順を変える場合は、マークミスを起こさないように、解答番号をしっかりと確認することが必要です。

4. 記述力養成とのてんびんを考えよ

共通テストは確かに近づいてきましたが、基本的には、毎日時間を決めて応用・記述対策も続けることが大切です。ただし時間の配分が大事であって、残りの時間オールマーク対策でよいか、自分の二次科目の量や仕上がり具合と相談して配分を決めることです。例えば「12月上旬までは今まで通り記述力優先で、共通テストブレなどを利用して課題を見つけ、以降はマーク・記述力を混在させ、正月からはマーク力の徹底アップ」など、計画は人によって変わります。

5. 受験は最後まで粘った者が勝ち、ぎりぎりの勝負ができた者が勝ち

受験は長期にわたる戦いです。第一希望でなくても、ひとつ合格すれば「ここでいいや」という気になりやすいですし、戦いきれずに、離脱するものが消えていくのが常です。とすれば、最後まで粘ることで、1ランク上の大学に届くということが起こりえます。もちろん、最後まで粘っているなかで、2月より3月のほうが学力が上がっているのも事実です。あきらめずに、最後までやりきる気持ちが大切ですし、そのことは多くの先輩の結果によっても実証されています。

また、「合格すればうれしいし、落ちたらくやしい」そういうぎりぎりの勝負をしてほしいと思います。もちろん、高い志望校を目指して、現在位置を確認した上でチャレンジする人はいいのですが、現在位置と大学の距離もわからないまま「〇〇大と△△大だけ受けて落ちて浪人しているんだ・・・」という人も、世の中にはいます。プライドは傷ついていないかもしれませんが、どのくらいの差で落ちたのかもわからないし、「なにくそ来年は」となかなか思えません。典型的な「浪人をして伸びないタイプ」になってしまいます。仮にセカンドベストの受験校を受けることになっても、ここを落ちるわけにいかないと思えば、学習に熱が入り合格してしまいます。行く行かないは、最後まで続く懸命な勝負を終えてから判断すればよいのです。